

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画
① 市青少年センター事務局庶務事業	教育委員会が委嘱した補導員により青少年を健全に育成する。	街頭補導実施回数	回	237	237	319	300
② 社会を明るくする運動事業	広報等の啓発活動を行う。	広報車巡回活動	回	2	2	2	2
③ 玉名広域補導連絡協議会事務局庶務事業	広域的に、青少年に関わる事業に取り組む。	定例会、研修会の開催回数	回	9	9	9	10
④							
⑤							

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H23目標	H24目標	H25目標	H26目標
			H23実績	H24実績	H25実績	
1 市内少年犯罪発生件数	市内における18歳未満の青少年が犯した犯罪発生件数	件	0	0	0	0
			48	25	34	
2 街頭補導注意件数	街頭補導時における注意件数	件	0	0	0	0
			10	15	32	

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明	
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	事業廃止により、非行防止と非行の早期発見に支障をきたし、健全な青少年の育成が出来なくなる。	
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、役割が薄れていないか。		
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。		
有効性 (判定) C	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。		昨年と比較し犯罪発生件数が増加したことから、夜間等の日没後の街頭補導活動を実施するなど、効果的な補導活動を検討していく。
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。		
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。		
効率性 (判定) A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。		
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。		
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。		
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。		
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。		

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input checked="" type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	街頭補導の実施時間帯を見直すなどして、より多くの少年の問題行為を早期に発見し、適切な補導及び助言を行うために学校や警察との連携を密にし、青少年センターの設置運営事業の継続は必要である。
昨年からの見直し・改善状況【32】	特になし

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	少年非行の現状を重く受け止め、家庭・学校・地域ならびに関係機関などの連携により、非行の早期発見ならびに防止に努めると共に、少年の健全育成を図るために青少年センター事務局事業を推進する。	評価責任者 板倉 英一
------------------	--	----------------